

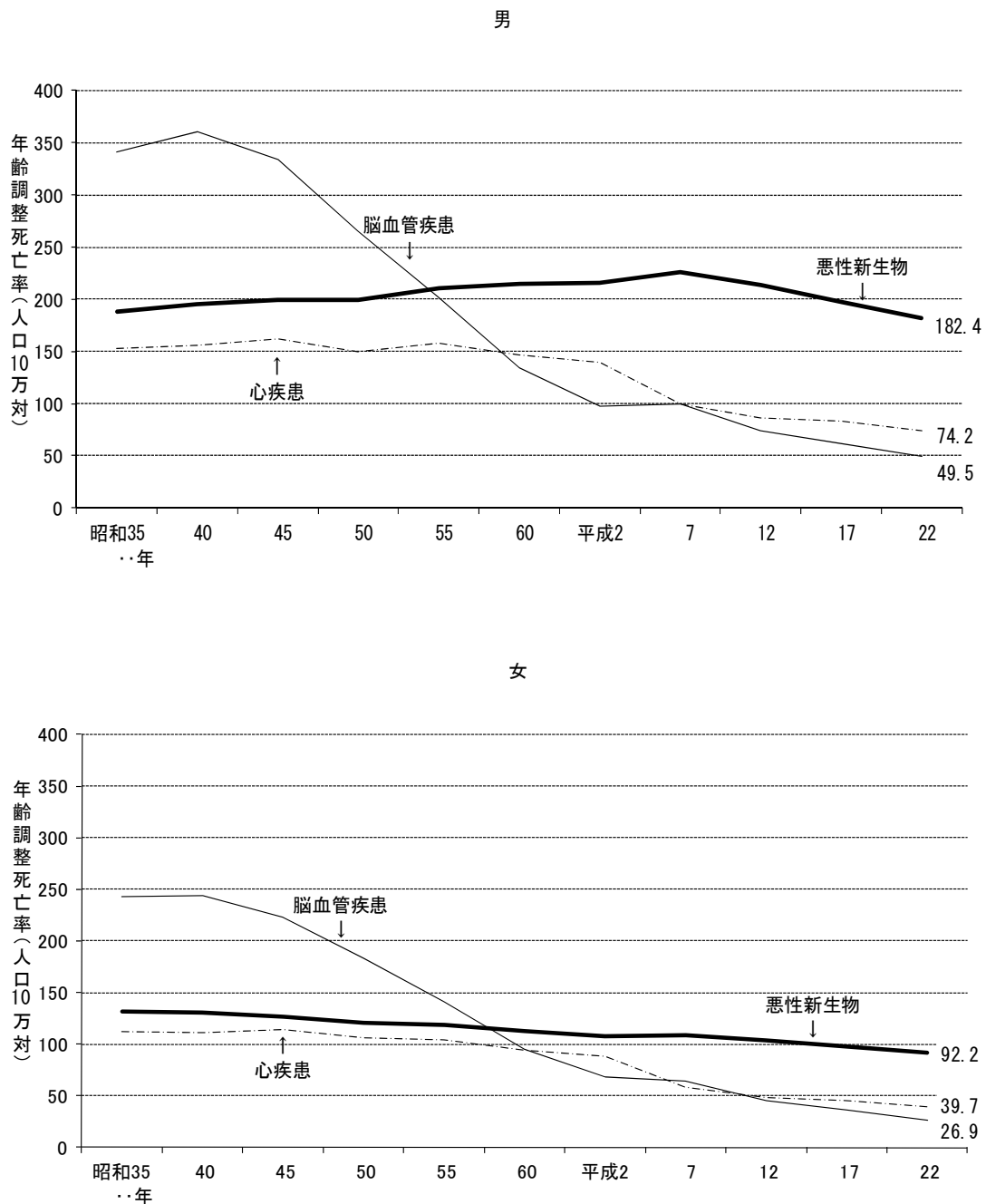
3. 三大死因(悪性新生物、心疾患、脳血管疾患)による死亡の状況

○全国の三大死因による死亡の状況の年次推移

平成 22 年の年齢調整死亡率をみると、悪性新生物は男 182.4、女 92.2、心疾患は男 74.2、女 39.7、脳血管疾患は男 49.5、女 26.9 となっている。

ICD-10 に改定後の平成7年の年齢調整死亡率と比較すると、悪性新生物の男では 43.7 ポイント、女では 16.1 ポイント、心疾患の男では 25.5 ポイント、女では 18.7 ポイント、脳血管疾患の男では 49.8 ポイント、女では 37.1 ポイント低下している。(図6-1)

図6-1 三大死因の年齢調整死亡率の年次推移



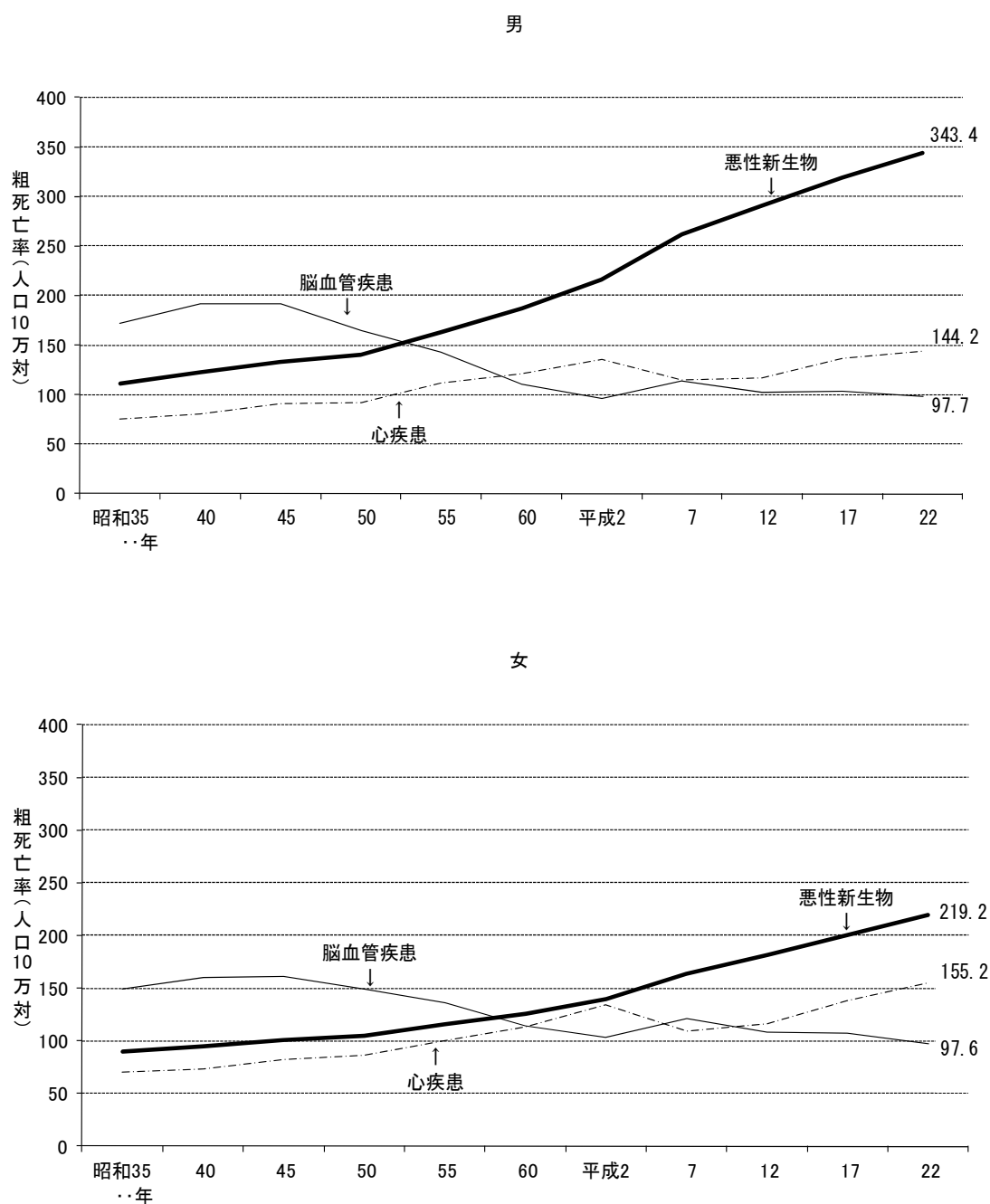
注:平成2年から7年にかけての心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。

平成 22 年の粗死亡率をみると、悪性新生物は男 343.4、女 219.2、心疾患は男 144.2、女 155.2、脳血管疾患は男 97.7、女 97.6 となっている。

ICD-10 に改定後の平成7年の粗死亡率と比較すると、悪性新生物の男では 81.4 ポイント、女では 56.1 ポイント、心疾患の男では 29.8 ポイント、女では 45.6 ポイント上昇しているが、脳血管疾患の男では 16.5 ポイント、女では 23.8 ポイント低下している。

年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。(図6-2)

図6-2 三大死因の粗死亡率の年次推移



注:平成2年から7年にかけての心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。